

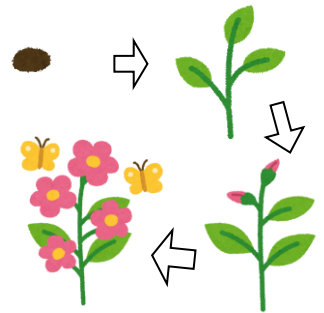
おおきくなるっていうことは

「おおきくなるっていうことは にやさしくなれるってこと」

この口に入る言葉はなんでしょう？ これは、中川ひろたかさんがかかれた『おおきくなるっていうことは』という絵本から抜粋した文です。絵本なんて小さな子供が読むものだと思うかもしれませんが（実際、この絵本は幼稚園や保育園に入園するくらいの子供を対象にしています）が、大きくなってから読んで、考えさせられるものもあります。この絵本はこんな文から始まります。

おおきくなるっていうことは ようぶくが ちいさくなるってこと
おおきくなるっていうことは あたらしい はが はえてくるってこと

お気に入りの服が小さくなって着られなくなってしまったこと、ぐらぐらしていた乳歯が抜けて、丈夫な永久歯が生えてきたこと。そんな経験を、みなさんもしてきたことでしょう。みんな、こうして大きくなってきたんですね。さて、この本はさらに続きます。



おおきくなるっていうことは まえより たかいところに のぼれるってこと
おおきくなるっていうことは たかいところから とびおりられるってこと
それもそうだけど とびおりても だいじょうぶかどうか かんがえられるってことも
おおきくなるっていうこと

みなさんは、小学生よりも「おおきな」中学生です。続く休校により、学校でともに生活することは出来ませんが、今はおうちで自分なりに計画を立てながら生活し、できることや知っていることを増やしているところだと思います。再開されれば、その努力が一気に実を結び、小学生の頃よりもできることがきっと増えることでしょう。しかし、それだけではいけません。考える力も成長しているといいです。自分の行動によって起こる結果を、きちんと考えていますか。学校での過ごし方、家庭学習や提出物の締切、授業の受け方など、1つ1つの行動がどんな結果につながっていくのか、おおきくなったみなさんなら、考えることができるはず。ちなみにこの絵本は、最後こんな文で終わります。

おおきくなるっていうことは じぶんより ちいसानひとが おおくなるってこと
おおきくなるっていうことは ちいसानひとにやさしくなれるってこと
おおきくなるっていうことは そういうこと

中学校にはみなさんより小さな人はいませんが、周りの人に対して優しさをもって接することができると思います。ぬくもりある態度は、周りの態度も温かなものに変えていきます。大きくなったみなさんには、その優しさを発揮する相手がたくさんいるということに、気付いてもらえたらいいです。

知中学校の総合的な学習の時間の柱は、「他者理解」と「生き抜く力の育成」です。人は一人では生きていけません。周りにいるたくさんの人に支えられてこれまで成長してこられたこと、忘れないでほしいです。ただ、みなさんは支えられるだけではいけません。大きくなったみなさんは、今度は支える側になるのです。総合的な学習の時間では、そのために様々なことを考え、必要な力を身につけていけたらと思っています。

朝がくると

まどみちお

朝がくると とび起きて ぼくが作ったものでもない 水道で 顔をあらうと
ぼくが作ったものでもない 洋服を きて ぼくが作ったものでもない ごはんを おしゃむしゃたべる
それから ぼくが作ったものでもない 本やノート
ぼくが作ったものでもないランドセルに つめて せなかに しょって
さて ぼくが作ったものでもない靴を はくと
たったか たったか でかけていく
ぼくが作ったものでもない 道路を
ぼくが作ったものでもない 学校へと ああ なんのために

いまに おとなになったら ぼくだって ぼくたって
なにかを 作ることが できるように なるために

